

し じょうきん ご どの ご へん じ
 「四 条 金 吾 殿 御 返 事」
 ぼんのうそく ぼ だい ご しょ
 (煩 悩 即 菩 提 御 書)

ほ けきょう しんじん たま
 法華經の信心を・とをし給へ・
 ひ
 火をきるに・やすみぬれば火を
 えず、^{ごうじょう だいしんりき}強盛の大信力をいだして
 ほっ けしゅう し じょうきん ご し じょうきん ご
 法華宗の四 条 金 吾 ・ 四 条 金 吾 と
 かまくらじゅう じょう げ ばんにんない し に ほんこく
 鎌倉中の上下万人乃至日本国の
 いっさいしゅじょう くち たま
 一切衆生の口にうたはれ給へ、
 な なが いわん な
 あしき名さへ流す況やよき名を
 いか いわん ほ けきょう な
 や何に況や法華經ゆへの名をや

(御書 1117 ~ 1118 ページ)

通 解

法華經の信心を貫き通しなさい。火を起こすのに、途中で休んでしまったなら、火を得ることはできない。

強盛の大信力を出して、法華宗の四 条 金 吾、四 条 金 吾 と、鎌倉中の上下万人をはじめとして、日本国の一切衆生の口にうたわられていきなさい。

人は悪名でさえ流すものだ。まして、善き名を流すのは当然である。ましてや、法華經ゆえの名は言うまでもない。

 つらぬ
 信心を貫く挑戦の日々を！

よくわかる解説

本抄は、日蓮大聖人が流罪地の佐渡で認められ、鎌倉の門下の中心者である四 条 金 吾 に送られたお手紙です。

この御文では、「持続の信心」の大切さについて述べられています。火を起こすために木を擦り合わせていても、途中で手を止めてしまえば、火を起こすことはできません。信心もまた、途中で手を抜くことなく、地道に貫き通すことが大切であると説かれています。

そして、「日蓮大聖人門下の四 条 金 吾」として人々に称賛される存在になりなさい、と呼び掛けられています。

未来部の皆さんにとって、「信心を貫く」とは、具体的に何をすることでしょうか。

それは、題目を唱えながら、目の前の課題にベストを尽くしていくことです。その姿勢を続けていく中で、周囲から信頼され、自身の成長へとつながっていくの

です。

あるメンバーは、高校の野球部でキャプテンを務めていました。彼は朝晩の勤行を欠かさず、人一倍の練習に励みました。甲子園出場の夢はかないませんでした、真剣に努力し続ける中で培った人間性で、周りからの信頼を勝ち取ることができ、社会で実証を示しています。

人生には、いくつもの困難が押し寄せます。その正念場で、勝利の姿を示していくために、まずは「持続の信心」に徹することが大切です。皆さんが信心を貫き、どんな状況でも朗らかに前進していく姿によって、仏法の偉大さを証明していけるのです。

池田先生はかつて、次のように語られました。

『悩みや、行き詰まりはあるであろう。その時こそ、『貫け！』。前進を貫いて、自分で自分を勝利させる以外に道はない』

さあ、いよいよ新学期！ 今いる場所から挑戦を開始し、黄金の日々を積み重ねていきましょう！